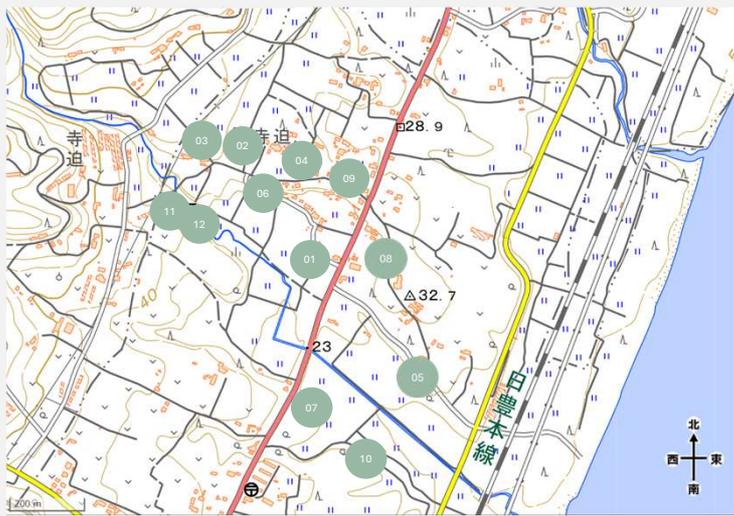


# 都農町地域資源マップ 1班

永野 夏葵 / 成松 凜依 / 三瀬 蒼大 / 山田 晃輝



**01 無人販売所**

都農町の直売所では、地元で農家さんが育てた新鮮な野菜が手ごろな価格で販売されていた。この日並んでいたのはトマト、サツマイモ、茄子、そしてピーマンだった。それぞれ一袋百円という驚きの安さで思わず足を止めてしまった。価格にも驚かされたが、野菜の新鮮さにも驚かされた。どれも色つやがよく、形も整っていて農家さんに丁寧に育てられていたことが感じられた。せっかくなので機会があったため、班員全員それぞれ欲しい野菜を一袋ずつ買わせてもらい、実際に自宅で調理して味わうことにした。普段スーパーで購入する野菜と比べても鮮度や味の違いを感じることができ、地元で採れたものをそのまま口にするという体験の価値を実感することができた。(成松)

**02 長福寺**

寺の境内はとても丁寧に整備されており長い年月を経てもなお、大切に守られてきたことが感じられた。周囲には木々や花々、鯉が泳いでおり心が落ち着くような穏やかな空気が漂っていた。本堂の裏手にまわると、地藏菩薩や阿彌陀如来仏像が静かに安置されていた。参拝者の姿は少なく、静けさの中にある神聖さが印象的であった。仏像の存在やお寺全体から伝わってくる落ち着いた空気は地域に根付いた信仰や文化を感じさせてくれ、静かで美しい場所であった。(成松)

**03 長福寺の近くに生まれている農家さんが栽培したズッキーニとトマト**

都農町でのトマトの栽培は昔はもっと盛んであり、25件ほどの農家がいたそうだ。しかし、農協の糖度や栽培方法で価値に差をつけないやり方に不満を感じ、やめてしまう方も多かった。ズッキーニは、1.8歳から7.2歳現在まで栽培を続けており、1.5年前には市場参入も果たしている。農家はもうからないため、農家を自分の子供に継がせる気はなく、今後始めるなら六次産業だとおっしゃられていた。帰る前には1人3個ずつトマトを持たせてくれた。(永野)

**04 寺迫公民館**

寺迫公民館の近くには住宅地が点在している。たくさんお地域住民が集まりやすい身近な存在であることを感じた。寺迫公民館は広い駐車場に長いスロープがありバリアフリー化がみられた。近くの住民の方に寺迫公民館について話を伺ったのだが、寺迫公民館では10年近く前までは寺迫公民館を会場にたくさんイベントや交流会などが行われており、子供たちもたくさん集まるような場所であったが、最近ではそのようなことも行われておらず、寂しさを感じることもあるそうだ。この話を伺ったあと寺迫公民館の周囲の住宅を確認したのだが、子供たちがいる様子は見られなかった。多くの人は就職や進学を理由に東都農町を離れていっているのかもしれないと感じた。(山田)

**05 用水路**

水田を繋ぐようにして続いている用水路で、一つ一つの長さはかなり長く感じた。多くの水田へと水を分配できるようにするための工夫だと思うが、あまり見られない光景で新鮮だった。また、水田にひくための水なのでもきれいだと感じた。しかし、水田の近くの道には柵などがなく水路へ落ちてしまう危険性もある。また、用水路のわきには廃棄されている野菜が多くみられた。(三瀬)

**06 プール**

このプールは赤迫地区こども会によって管理されており、地域の子どもたちが安心して遊べる場所として長年親しまれてきた。広さは決して大きくはないが、こじんまりとした空間だからこそ、子ども同士の距離も近く憩いの場所であった。深さも浅めに設計されており、小さな子どもでも安心して水遊びができるため、まさに子ども専用プールとして使用されていたであろう。また、プールの壁や床には経年による傷みが見られ、ところどころに老朽化の兆しが見えられた。しかし、プール内のベンチは新しく今なお現役なのかもしれない。(山田)

**07 山の中の水路**

山道を歩いていた時に見つけた水路。この山の周辺は田畑が多かったため、それらに繋がっていると考えられる。植物に囲まれており、水は綺麗だった。実習当日は最高気温27度の蒸し暑い日であり、さらにはかなり歩いた後だったため、水を触って涼もうとしたが、道から少し離れていて手が水まで届かず悔しかった。(永野)

**08 沿道修景指定樹木**

大通りのそばに堂々とそびえ立つ樹高14メートルにも及ぶ立派な樹木がある。この樹木は「オガタマンノヤ」として知られ、長い年月をかけてこの地に根付き、風雨に耐えながら成長してきたであろう。この樹木は周囲の樹木の大きさは比にならないくらい大きく、樹木の下には大きな木陰ができており実習時はとても気温が高かったが、その暑さを感じないくらい涼しかった。昭和47年5月、宮崎県はこのオガタマンノヤを沿道修景指定樹木として認定された。その指定の要旨には「古木」と記されており、長年にわたってこの土地とともに歩んできた歴史的な存在であることがうかがえた。樹木のすぐ脇には住宅があり、住人はこの大きな樹木の手入れなどもしているのかもしれない。(山田)

**09 家庭菜園のスナップエンドウを収穫されていた女性2人**

写真撮影は叶わなかったが、スナップエンドウの収穫中の女性2人にお話を聞くことができた。都農町の良いところは自然が豊かなところ、悪いところはインフラが整っていないところだそうだ。買い物をするところや、ご飯を食べられるところ、病院等が少なく困っていると話してくださった。しかし、話を聞く限りお二人からは引越したいほど不便だという雰囲気は感じず、むしろ都農町に思入れがありそうだと感じた。スナップエンドウは、塩ゆけ、もしくは醤油とマヨネーズで味付けして食べるのがおいしくないと教えてくださった。(永野)

**10 獣道**

ふとした好奇心から細い獣道に足を踏み入れた。周囲は草木が生い茂り、所々では枝が頭上にかぶさるように伸びていた。道は思いのほか長く、道中には大量に廃棄されたミニトマトがあり人が普段から通っているような気配を感じた。しばらく歩き続けていると、徐々に道幅が広がり、そしてようやくこの獣道が駅の近くで発見した小道につながることに気づいた。小さな好奇心から新しい発見をするといういい経験になった。(成松)

**11 菅原神社 鳥居**

都農町寺迫地区に位置する神社で、寺迫公民館を通り過ぎてまっすぐ進んでい少しすると左へ向かう細道があり、そこで1つ鳥居が立っているのが見える。そこを進み、雑草の生い茂る道を進むと上の写真のような鳥居がみられる。日陰になっているのでとても涼しく快適だが、落ち葉や雑草が多く、滑りやすくなっていた。また、鳥居を抜けると右の写真のようにかなり急な階段になっており、そこを上るのも手すりはあるものの滑りやすく危険だと感じた。(三瀬)

**12 菅原神社**

左に記載した神社の本殿。福岡の太宰府天満宮と同じ菅原道真公が祭られており、学業成就などのご利益があるとされている。トマト農家の方によると毎年、7月6日と12月16日にここで祭りが行われているとのことだった。本殿の周囲は雑草が少なく定期的に除草されているように感じた。また、本殿内でも外からしか見られなかったがとてもきれいにされていると感じた。(三瀬)

～感想～

- 今回の実習を通して、東都農町の良さを学びました。複数の住民に東都農町のいいところと改善してほしいところを聞くと多くの方々が「スーパーや病院は遠いけど暮らしやすい」とおっしゃられていて、現地に行かないとわからない住民のあたたかさを感じました。(山田)
- フィールドマップを作ることで東都農町の魅力を改めて感じました。実際に歩いてみると多くの人が話しかけてくださったり、野菜のおすそ分けや飲み物をくださったりと都農町の人々のあたたかさや、地域を理解する大切さを実感する体験になりました。(成松)
- 今回の実習を通し、東都農町の魅力について考えることが出来ました。初めての実習という事でインタビューなどで拙い部分もありましたが、親切に答えていただき地域のあたたかさを感じられとても良い経験になりました。(三瀬)
- 実際に自分たちの足で東都農を歩き、東都農に住んでいる方々のお話を聞いたからこそ気づくことのできた東都農の魅力がたくさんありました。東都農に住まわれている方々、瀬川先生をはじめとしたご協力いただいた2、3年生の先輩方等多くの方に支えられた初めての实習でしたが、この授業が始まるまでは名前も知らなかった土地が、もう一度訪れたいと思えるほどに好きになれた思い出に残るものとなりました。(永野)

